年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

皆様方には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私が3期目の町政を担わせていただいてから、最初の1年でしたが、町民の皆様の温かいご支援により、無事新しい年を迎えることができましたことに、心よりお礼申し上げます。引き続き、「公平と誠実」を信条とし、町民の皆様との対話を大切にしながら、「夢と笑顔のあふれるまちづくり」を目指して、全力で邁進してまいります。

さて、昨年を振り返ってみますと、元号が平成から令和になり新しい時代の幕が開きました。7月の全英女子オープンでは、渋野 日向子さんが日本人では42年ぶり2人目となる海外メジャー制覇を果たし、9月に始まったラグビー・ワールドカップでは、日本代表チームが快進撃を見せて、新語・流行語大賞に「ONE TEAM」が選ばれるなど、東京オリンピック・パラリンピック開催を控える中でスポーツの話題に溢れた年でありました。

また、島前3町村におきましては、東京オリンピック・パラリンピック開催にあたり、ミクロネシア連邦を相手とするホストタウン登録をしたところで、選手を招いた文化体験や、相互交流を検討するほか、離島が抱える課題を共有し、課題解決に向けた取り組みを進めてまいります。

明るい話題の一方で、昨年は東日本を中心に自然災害が相次ぎました。9月の台風15号、10月の台風19号で

西ノ島町長
升谷　健

は特に大きな被害が生じました。こうした自然災害を対岸の火事とはせず、本町におきましても、危機管理体制のより一層の充実を図ってまいります。

町政では、本町を含め全国5市町で設立した「にっぽんA級（永久）グルメのまち連合」の活動が本格的にスタートしました。地域おこし協力隊の募集を共同で行っているほか、東京都内でのPRイベント開催など、それぞれの魅力を発信し、知名度アップと交流人口の拡大を図っております。本町の取り組みとしては、水産物の地産地消を推進するため、地元水産事業者による朝市が開催され賑わいました。こうした取り組みをきっかけとして、安価に島内流通が図られ、観光面への波及はもとより、地域産業の活性化につながることを期待しております。

秋には、町民の皆様をはじめ大変多くの方々のご協力により、様々なイベントを開催しました。中でも、7回目となる西ノ島ハーフマラソンには、これまで最多となる370名のエントリーがあり、絶景を楽しんでいただきました。また、産業文化祭と同時に開催された「細川たかしファミリーコンサート」は歌もトークも素晴らしく、加えて地元からも民謡関係者のサプライズ出演があり大いに盛り上がりました。

昨年オープンしたコミュニティ図書館「いかあ屋」は、隣接する放課後児童クラブや浦ノ谷広場と一体的に利用され、開館以来、入館者が3万人を超えるなど賑わっております。今後も、コミュニティ・教育文化の拠点として、イベントなどの企画を通じて、多くの方々に活用いただけるよう取り組んでまいります。

本年は、人口減少に立ち向かうために策定した第1期の「西ノ島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が最終年度を迎え、4月からは新たな第2期の総合戦略がスタートすることになります。これまでの取り組みによる効果を検証し、課題を整理した上で新たな戦略を策定・実行してまいります。

今後も、本町のさらなる飛躍と「夢と笑顔のあふれるまちづくり」を目指し、町民の皆様や町職員と一体となって取り組んでまいりたいと存じますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が、町民の皆様にとりまして、素晴らしい年でありますようにお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。